

第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成30年9月28日(金) 5校時
学 級 2年A組(男子9名 女子13名 計22名)
指導者 教諭 菊池美代

1 単元名 PROGRAM 6 A Work Experience Program (開隆堂 2年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領 2 内容(1) 言語活動「話すこと」の中の、「与えられたテーマについて簡単なスピーチができるようになること」を主なねらいとし、新しい言語材料として加わる「エ(カ) to 不定詞」を指導する。

言語活動においては、不定詞を取り入れながら、身近な話題や生徒自身についての話題を中心に、いきいきと話せるように言語活動を表現することを目標としている。これらの文を使えることにより、自分の欲求や行動する目的を述べるができる。

本文のストーリーは、ウッド先生が職場体験について由紀、武史、桃子にたずねるという内容である。由紀は保育園で子どもたちと楽しく過ごしたことで、将来保育園の先生になりたいと語り、武史はスーパーマーケットでの体験から、あいさつの大切さを学んだことを語る。さらに、桃子はコンピュータ技師になりたいという夢を語る。8月末に職場体験を行ったばかりの生徒たちにとって、この3人の体験の内容に親しみやすく共感できる部分が多い単元である。

本単元のまとめとしては、「西和賀にお店や施設を作る」ことを想定し、自分たちのしたいことやその目的などについて考えをまとめ、それについて5文以上で発表できるようにさせたい。さらに、My Project 5「将来の夢を語ろう」のスピーチにつなげられるよう、個々の将来について表現するための意欲につなげていきたい。

(2) 生徒観

本学年の昨年度の Can-Do テストでは、正答率が 67.0%であった。小問に分けると「聞くこと」「読むこと」に関しては、70%を超え、100%のものもあったが、「書くこと」の正答率が低く、50%に達しない問題もあり、「書くこと」に課題があることがはっきりした。そこで、2年生では言語材料として、一般動詞と be 動詞の過去形や過去進行形、be going to~ や will を使った未来表現、義務などを表す表現 (must, have to~, should) などの学習時には、意識して書く活動を取り入れてきた。しかし、まだまだ十分とはいえず、繰り返し使う場面を設定し練習していく必要のある生徒が多い。

本単元の学習では、生徒間の交流場面や教師との対話の場面を多く取り入れながら、学習課題のテーマに迫っていく。生徒たちは、英語に限らず好奇心を持って授業に取り組んでいるので、本学習課題に関しても意欲的に取り組む姿が期待できる。

(3) 指導観

この単元では、職場体験が題材として取り上げられているため、指導するにあたっては、生徒たちの体験も話題にしなが、本文の読み取りをしていきたい。また、不定詞の「to+動詞の原形」を使って、自分の考えを話したり、相手の話すことを聞き取ったり、身の回りのことを説明するペア活動やプリント学習をしていきたい。その上で、既習事項と関連づけながら、ゴールの課題について自分たちの考えをいきいきと表現させられるよう授業を展開していきたい。そのために、使用が予想される語については、教科書やプリントなどで確認できるように準備しておきたい。

3 単元の目標

- (1) 不定詞を用いて、積極的に表現しようとしている。【**関心・意欲・態度**】
 (2) 不定詞を用いて、自分のしたいことや目的について表現することができる。【**表現の能力**】
 (3) 不定詞を用いた英文を聞いたり読んだりしてその内容を理解できる。【**理解の能力**】
 (4) 不定詞を用いた英文の形・意味・用法を理解し、それらに関連づけながら運用することができる。【**知識・理解**】

4 単元の指導計画・評価計画（8時間扱い 本時8／8）

時数	主な学習活動	評価の観点				評価規準
		関	表	理	知	
1	・単元での学習内容を確認する。 ・不定詞（名詞的用法 want to＋動詞の原形）を用いた文を理解し、自分のなりたい職業やしたいことを話す。	○			○	・不定詞を用いた文を理解し、自分のなりたい職業やしたいことを話すことができる。
2	・本文の概要を読み、内容に対する2つの質問に答えることができる。				○	・本文の概要を読んで、内容に対する質問の答えが書かれてある部分に、線を引くことができる。
3	・不定詞（副詞的用法）を用いた文を理解し、示された文に続けて、行動の目的について話す。	○			○	・不定詞（副詞的用法）を用いた文を理解し、何のために働くのか（I will work to~）や何のために勉強するのか（I study to~）など、示された文に続けて、行動の目的について話すことができる。
4	・本文の概要を読み、内容に対する2つの質問に答えることができる。				○	・本文の概要を読んで、内容に対する質問の答えが書かれてある部分に、線を引くことができる。
5	・不定詞（形容詞的用法）を用いた文を理解し、示された文に続けて、何をするためのものかを話す。	○			○	・不定詞（形容詞的用法）を用いた文を理解し、お金は何をするために必要か、ほしいか（I need/want money to~）など、示された文に続けて話すことができる。
6	・本文の概要を読み、内容に対する2つの質問に答えることができる。				○	・本文の概要を読んで、内容に対する質問の答えが書かれてある部分に、線を引くことができる。
7	・「西和賀に作りたい店や施設」について、マッピングを用いて書きたいことを整理し、自分の考えや気持ちを書く。	○			○	・「西和賀に作りたい店や施設」について、書きたいことを整理し、それについて書くことができる。
8 本時	・既習の学習事項と本課の学習事項を関連づけ、「西和賀に作りたい店や施設」について話す。	○	○			・既習の学習事項（can~,will~,should~,have to~,think~,There is/are~など）と、本課の学習事項を関連づけながら、「西和賀に作りたい店や施設」について、まとまりのある内容を話すことができる。

5 本時の指導

(1) 目標

「西和賀に作りたいたいお店や施設」について話すことができる。【表現の能力】

(2) 研究に関わる授業構想

ほとんどの生徒にとって、実際に英語に触れる機会は、英語の授業のみというのが実態である。そのため、1単位時間の授業の中で学習した既習事項についても、使用する機会が少ないために、なかなかその定着が図れないのが現状である。言語学習においては、その使用回数が多いことが、定着にも大きく関係すると考え、可能な限り、言語活動の定着練習を多くすることを心がけてきた。

基礎的・基本的な内容の定着を図る活動としては、授業の展開の前半部分に、前時までの復習として、音読・英作文・単語の確認をする時間を取り、教師と1対1で確認する場面を取り入れ、粘り強く取り組む態度の育成にも力を入れてきた。

「見通す」学習活動については、各プログラムの始めに、プログラム中の各パートの目標を確認しながら、最終的なゴールを示し、何ができるようになればいいのかを提示した。ゴールまでの授業については、ゴールに向かって言語材料等を積み重ねていくイメージで、使用されている語や文を捉えられるよう進めてきた。

「振り返る」学習活動については、ゴールの活動終了後に学習を振り返り、目標に近づけたかどうかの確認をしていきたい。

(3) 評価の観点と評価規準

観 点	評価規準 (B)	評価資料等
コミュニケーションへの関心・意欲 ・態度	・「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	観察
表現の能力	・「西和賀に作りたいたい店や施設」について、自分の考えや気持ちを話すことができる。	ワークシート 観察

(4) 展開

過程	指導過程	学習活動・学習内容	指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1 あいさつ	・あいさつをする。	・英語学習の雰囲気を作る。
	2 学習課題の設定	・前単元で行った「西和賀紹介」の内容を振り返る。 「西和賀に作りたい店や施設」について話そう。	・前単元で行った「西和賀紹介」の内容にふれた後、課題を提示する。
展開 35分	3 結果と方法の見通し	・不定詞を使って表現できることを確認する。 Ex : I <u>like to read</u> books very much. I <u>want to</u> make a bookstore in Nishiwaga. I want a bookstore <u>to buy</u> books.	見通し Program 6 で学習した不定詞や、既習の表現を関連づければ、課題について話すことができることを確認する。
	4 課題の解決 ・個人 ・グループ	・Program6 で学習した want to~や、既習事項を使って、話す内容を確認する。 ・「西和賀に作りたい店や施設」について、まとまりのある内容になるように工夫や付け加えを考える。(交流) ・課題に関わる表現に結びつく例文の口頭練習をする。 Ex : : like to~, have to~, can~, will~, must~, I think~, There is/are~, If~, When~, need~ I'm going to talk about~ Why don't you~? Please come to~ to... ・「西和賀に作りたい店や施設」について、まとまりのある内容になるように、工夫や付け加えを出し合う。(対話) ・グループ内で「西和賀に作りたい店や施設」について、メモを頼りに発表し、相互評価をする。 Ex : <u>There is</u> a famous supermarket and some good restaurants in Nishiwaga. <u>But there is</u> no bookstore in Nishiwaga. I <u>want to</u> make a bookstore in Nishiwaga. <u>If I</u> make it, people in Nishiwaga <u>will</u> be happy. <u>I think</u> need a lot of money <u>to make</u> it. I <u>have to</u> save money. ・グループ活動後、指名された生徒は全体に発表する。	・前時までのプリントを活用して取り組ませる。 ・課題に関わる表現に結びつく例文を提示し、口頭練習をさせる。 ◆互いの英文をよく聞いて、意見を出し合っているか。(観察) ◆「西和賀に作りたい店や施設」についてまとまりのある内容を話しているか。(ワークシート・観察)
終末 10分	5 まとめと振り返り	・本時及び本単元のまとめと振り返りをする。 まとめ 不定詞や既習の表現を使えば、「西和賀に作りたい店や施設」や、自分のしたいことについて話すことができる。 ・振り返った内容を交流し発表する。	振り返り (単元シート) ・学習した表現(want to など)を使って、「西和賀に作りたい店や施設」について話すことができた。 ・不定詞を使って、自分の将来について表現したいと思った。
	6 次時の確認	・次時の連絡をする。	

(5) 板書計画

Friday, September 28th sunny

今日の Goal

「西和賀に作りたい店や施設」について話そう。

授業の流れ

既習の表現・語

例文・生徒からの質問・説明など